

定住自立圏構想

共同中心市宣言書

平成21年4月30日

松江市 米子市

松江市・米子市 定住自立圏 共同中心市宣言

～環日本海時代における中核圏域の形成をめざして～

松江市と米子市は、世界に認められたラムサール条約登録湿地である「中海・宍道湖」沿岸に位置し、44万人の人口が集積する中海圏域の政治、経済、文化の中心的役割を担っている都市です。

江戸時代からともに城下町として栄え、出雲街道により結ばれ、往時は徒歩で往来が行われていました。今日では、JR山陰本線、国道9号さらには山陰自動車道により結ばれるとともに、県境をまたぐ江島大橋の開通と関連道路の整備推進により、人・物・情報の交流は一層進み、圏域の一体感が着々と醸成されつつあります。

松江市は、中海とともに宍道湖、日本海に囲まれた水の都であり、松江城を中心とする城下町の風情は、文豪小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の「知られぬ日本の面影」により、広く世界に紹介されています。また、京都・奈良と並ぶ「国際文化観光都市」でもあります。今なお、松江藩7代藩主松平不昧公から受け継がれる茶の湯の文化が市民生活に息づく、歴史と文化の薫り高い都市です。

米子市は、白砂青松の弓ヶ浜半島、中国地方随一の秀峰大山の四季折々の雄姿と山麓から湧出る名水に恵まれた自然豊かな土地であるとともに、明治時代からつづく鉄道網の拠点であり、現在でも米子自動車道、米子空港を擁する山陰の交通の要衝です。また、古くから山陰の商都と称される商業の町で、新しいものを積極的に受け入れる進取の気質にあふれ、交流により発展してきた、開放的で活気あふれる都市です。

両市を中心とする中海圏域は、豊かな自然環境と充実した都市機能の共存する恵まれた生活環境並びに日本海沿岸地域における有数の人口集積を誇り、近年の県境を越えた連携活動の進展に伴い各界から注目を集めています。

また、近年は、米子・ソウル間の国際定期便の就航など北東アジアとの経済・観光などにおける交流も盛んになってきており、本年6月に予定されている境港から韓国・ロシアへの定期貨客船の就航が軌道に乗れば、今後は韓国・ロシア、さらにはシベリア鉄道を介して欧州を視野に入れた国際物流の拠点として、日本海側の、そして西日本、中国地方の玄関口となりうる高いポテンシャルを有しています。

一方、これまで人口が集中していた三大都市圏においても人口減少傾向が見られる今日、特に地方圏においては、定住人口を集積するためにも、自立した都市機能を持ち、魅力あふれる圏域を早期に形成することが求められています。

住民生活を支えるのは基礎自治体である市町村です。

交通網の発達に伴い住民の生活圏の共有化が進む中、圏域全体の生活機能の強化や圏域内外のネットワークの強化を図っていく必要があります。

そのためにも、市町村の連携が重要であり、同時にその連携をマネジメントする機能も構築していかなければなりません。

こうした状況を踏まえ、平成19年7月には、中海沿岸の松江市、米子市、境港市、安来市の4市で「中海市長会」を創設し、さらに平成20年7月からは東出雲町をオブザーバーとして迎え、行政上の課題の解決、圏域の発展についての共通認識を深め、新たに圏域マネジメントの仕組み作りを開始したところです。

松江市と米子市は、こうした「中海市長会」の活動を核として、全国的にもまれな、2つの県にまたがる2つの中心市を持つ定住自立圏を形成し、中心市として、圏域全体の中核的な生活関連サービス機能の充実、確保に努め、誰もが安心して心豊かに暮らせる魅力ある圏域づくりに取り組めます。また、地域の連携を通じ、住民の生活利便性の向上と地域全体の一層の活性化をめざして、圏域のマネジメントに努めていきます。

一方、圏域を構成する他の自治体には、港湾機能、産業、伝統文化など、それぞれの特徴を活かすとともに、身近な生活機能の確保、ゆとりのある住環境、自然環境の保全などの役割も期待するものです。

松江市と米子市は、圏域を構成するすべての自治体の連携強化を促し、地域のさらなる発展と魅力向上をめざし、中心市としての自覚に基づき、共同してこのマネジメントを担い、活力ある圏域の形成を実現していくことをここに宣言します。

平成21年4月30日

松江市長 松 浦 正 敬

米子市長 野 坂 康 夫

【都市機能及び集積状況等】

中心市は、中海圏域において住民が安心して暮らしていただけるために必要な都市機能を以下のとおり提供しています。

1 商業集積地（売場面積 10,000 m²以上）

中心市には、圏域の大規模商業地域が集中しており、住民生活に必要な商品等を提供しています。

(1) 松江市

名 称	面 積
マイカル松江サティ	22,821 m ²
駅前商店街	17,014 m ²
上乃木・古志原商店街	15,445 m ²
学園通商店街	15,011 m ²
春日商店街	14,534 m ²
くにびき通り商業集積地区	12,469 m ²
田和山商業地区	12,461 m ²

※ 資料 島根県政策企画局統計調査課（平成 19 年調査）

(2) 米子市

名 称	面 積
ホープタウン	23,666 m ²
米子しんまち天満屋	20,900 m ²
米子駅前サティ	16,193 m ²
高島屋米子店	14,980 m ²
ホームプラザナフコ米子東店	10,287 m ²

※ 資料 鳥取県商工労働部（平成 20 年度調査）

2 経済団体

中海圏域には、様々な分野で連携組織が活動しています。

主な連携団体の名称
中ノ海ブロック経済協議会
中海四市観光協会会議
中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会
山陰国際観光協議会
環日本海経済活動促進協議会
中海自然再生協議会

3 市内主要金融機店舗数地元銀行

中心市の金融機関は、圏域の経済や住民生活を金融面で支えています。

(1) 松江市

名称	本店	支店	名称	本店	支店
日本銀行支店		1	農林中央金庫		1
都市銀行支店		1	農林漁業金融公庫		1
地方銀行	1	14	信用農業共同組合 連合会		1
第2地方銀行	1	9	農業協同組合	1	12
信用金庫	1	9	漁業協同組合	1	
信用組合		1	国民生活金融公庫		1
商工組合中央金庫		1	郵便局		55
労働金庫		3	生命保険会社支社		11
中小企業金融公庫		1			

※ 資料 中国財務局松江財務事務所理財課、信農連、漁業協同組合 JF しまね、松江中央郵便局、くにびき農業協働組合（平成18年度調査）

(2) 米子市

名称	本店	支店	名称	本店	支店
地方銀行		33	農業協同組合	1	9
信用金庫	1	15	漁業協同組合		1
商工組合中央金庫		1	郵便局		35
労働金庫		2	生命保険会社		20
国民生活金融公庫		1			

※ 資料 鳥取県企画部統計課、鳥取西部農業協同組合等（平成18年度調査）

4 空港

この圏域には、隣接した2つの空港「米子空港」と「出雲空港」があり、大都市圏への移動に欠かせない交通手段となっています。

(1) 出雲空港

(所在：斐川町)

便名	便数	搭乗者数
東京便	5便/日	565,594人
大阪便	8便/日	132,070人
福岡便	2便/日	36,944人
隠岐便	1便/日	14,195人

資料 島根県ホームページ（平成20年度）

(2) 米子空港 (所在：境港市・米子市)

便名	便数	搭乗者数
東京便	5 便/日	402,021 人
名古屋便	2 便/日	46,506 人
ソウル便	3 便/週	30,478 人

資料 鳥取県ホームページ (平成 20 年度)

5 港湾 (重要港湾)

中海圏域の重要港湾である境港は、国内貨物及び外国 (中国・韓国等) 貨物の取引が盛んに行なわれています。

港湾機能	港湾能力
最大岸壁	50,000 トン
けい船能力	バース数 46 箇所
コンテナ定期航路	中国 (大連、青島、上海) 韓国 (釜山)
取扱貨物量 (外貿)	輸出貨物量 181,219 トン
	輸入貨物量 1,972,182 トン
取扱貨物量 (内貿)	移出貨物量 275,520 トン
	移入貨物量 1,681,178 トン

※ 資料 境港管理組合ホームページ、境港貿易振興会ホームページ

6 鉄道

中心市の JR 駅は、山陰本線や境線沿線の周辺住民が、通勤・通学のために多数利用しています。

(1) JR 松江駅の乗降人員数

	普通	定期	計
乗客	769,815 人	861,829 人	1,631,644 人
降客	769,815 人	861,829 人	1,631,644 人

※ 資料 西日本旅客鉄道 (株) 米子支社 (平成 19 年度調査度)

(2) JR 米子駅の乗降人員数

	普通	定期	計
乗客	793,619 人	680,488 人	1,474,107 人
降客	793,619 人	680,488 人	1,474,107 人

※ 資料 西日本旅客鉄道 (株) 米子支社 (平成 19 年度調査)

7 バス・タクシー

中心市にはそれぞれ市内を循環するコミュニティバスが運行しており、高齢者の通院や買い物などの重要な交通手段となっています。

(1) 松江市

交通の種別	集計の種別	集計数
一畑バス	乗車人員	164 万人
松江市交通局	乗車人員	215 万人
コミュニティバス	輸送人員	47 万人
市内タクシー認可状況	事業者数	25 社
	台数	512 台

※ 資料 松江市交通局、国土交通省中国運輸局島根運輸支局（平成 19 年度調査）

(2) 米子市

交通の種別	集計の種別	集計数
日ノ丸バス	乗車人数	79.2 万人
日本交通バス	乗車人数	53.9 万人
米子市循環バス	だんだんバス	乗車人数 16 万人
	どんぐりコロコロ	乗車人数 1 万人
市内タクシー認可状況	事業者数	9 社
	台数	244 台

※ 資料 米子市、国土交通省中国運輸局鳥取運輸支局（平成 20 年度調査）

8 福祉・医療

中心市にはそれぞれ中核的な 2 次救急医療施設があり、周辺住民の健康的な暮らしを支えています。

(1) 松江市

項目	施設・従事者等の概要		
保育所の概要	50 箇所	乳幼児数 4,538 人	
医療施設	311 箇所	内 病院 14 箇所 3,695 病床	
		内 有床診療所 20 箇所 234 病床	
医療従事者	医師 505 人	歯科医師 117 人	薬剤師 337 人
	保健師 124 人	助産師 67 人	看護師 2,027 人
	准看護師 770 人	歯科技工士 103 人	歯科衛生士 222 人
松江市立病院	入院 150,871 人	外来 239,114 人	
松江赤十字病院	入院 208,463 人	外来 215,163 人	

※ 資料 松江市、島根県松江保健所、松江赤十字病院（平成 19 年度調査）

(2) 米子市

項目	施設・従事者等の概要		
保育所の概要	40 箇所	乳幼児数 3,645 人	
医療施設	269 箇所	内 病院 14 箇所 2,898 病床	
		内 有床診療所 23 箇所 305 病床	
医療従事者	医師 800 人	歯科医師 123 人	薬剤師 379 人
	保健師 101 人	助産師 78 人	看護師 2,205 人
	准看護師 911 人	歯科技工士 95 人	歯科衛生士 224 人
鳥取大学医学部附属病院	入院 208,482 人	外来 304,992 人	
山陰労災病院	入院 121,838 人	外来 238,314 人	

※ 資料 米子市、鳥取県西部福祉保健局、鳥取県福祉保健部、鳥取大学医学部、山陰労災病院（平成 19 年度調査）、医療従事者数は平成 18 年数値

(3) 松江市立病院の居住地別患者割合

松江市立病院は、県外や市外からも多くの方が利用しています。

自治体名	入院	率%	外来	率%
松江市	116,218 人	81.3%	201,646 人	84.2%
東出雲町	6,716 人	4.7%	11,404 人	4.8%
雲南市	7,294 人	5.1%	8,821 人	3.7%
その他県内	9,199 人	6.4%	13,528 人	5.7%
県外	3,553 人	2.5%	3,715 人	1.6%

※ 資料 松江市立病院 (平成 19 年度)

(4) 松江赤十字病院の居住地別救急患者割合

松江日赤病院は、県外や市外からも多くの救急外来患者が利用しています。

自治体名	患者数	率%
松江市	19,808 人	86.7%
東出雲町	702 人	3.0%
安来市	264 人	1.1%
その他県内	1,122 人	4.9%
鳥取県	193 人	0.8%
その他	733 人	3.2%

※ 資料 松江日赤病院 (平成 19 年度)

9 大学等

中心市は、大学や工業専門学校を有しており、医学、工学などの分野で質の高い教育が提供されています。

(1) 松江市

学校名	種類	人数	学部（学科）等
島根大学	学生数	4,541人	教育学部・法文学部・生物資源科学部・総合理工学部、法務研究科
	大学院の学生数	621人	
	教員総数	423人	
松江工業高等専門学校	学生総数	1,086人	(機械・電気・環境建設・電子制御・情報)
	教職員本務者	78人	
	兼務者	36人	
	職員数	45人	
島根県立大学短期大学部	学生数	519人	(健康栄養・保育・総合文化)
	教員数	37人	

※ 資料 島根大学、松江工業高等専門学校、島根県立大学短期大学部（平成20年度調査）

(2) 米子市

学校名	種類	人数	学部（学科）等
鳥取大学	学生数	1,195人	医学部
	大学院の学生数	307人	
	教員総数	214人	
米子工業高等専門学校	学生数	1,079人	(機械・電機情報・建築・電子制御・物質)
	専攻科	66人	
	教員数	78人	

※ 資料 鳥取大学医学部、米子工業高等専門学校（平成21年度調査）

10 自主放送を行なうCATV事業者

中心市を核として、ケーブルテレビ網を整備しており、地域の細かな情報を共有することができます。

(1) 松江市

放送事業者	放送区域
山陰ケーブルビジョン（株）	松江市（鹿島町を除く。）
松江市	松江市鹿島町

(2) 米子市

放送事業者	放送区域
(株) 中海テレビ放送	米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町

1 1 その他

(1) コンベンション施設 (1,000人以上)

中心市にはそれぞれ、全国規模の集会などを行える施設が整っています。

①松江市

施設・ホール	最大収容人員
くにびきメッセ大展示場	5,000人
島根県民会館大ホール	1,804人

②米子市

施設・ホール	最大収容人員
米子市公会堂大ホール	1,120人
米子コンベンションセンター多目的ホール	2,004人

(2) 観光客数

山陰文化観光圏の中心として、全国各地から数多くの観光客が訪れています。

自治体名	人数
松江市	8,599千人
米子市	1,308千人

※ 資料 島根県商工労働部観光振興課、鳥取県文化観光局観光政策課
(平成19年調査)

米子市観光客数は米子皆生温泉周辺(淀江町の一部を除く米子市及び日吉津村)

(3) 図書館利用状況

中心市はそれぞれ市立図書館を有しており、近隣市町村からも多数利用されています。

① 松江市立図書館

	松江市	安来市	東出雲町	米子市	境港市
登録者総数	92,055人	1,408人	2,318人	475人	194人
実利用者	15,408人	148人	454人	59人	35人
貸出冊数	538,282冊	3,897冊	11,917冊	770冊	1,055冊

※ 資料 松江市立図書館 (平成20年度)

② 米子市立図書館

	米子市	境港市	松江市	安来市	東出雲町
登録者総数	43,820人	1,501人	331人	1,080人	35人
実利用者	10,492人	260人	42人	164人	2人
貸出冊数	314,118冊	5,209冊	679冊	3,341冊	7冊

※ 資料 米子市立図書館 (平成20年度)

【連携を想定する事業】

中海圏域に暮らす住民が生活の利便性向上のため、連携を想定する事業は次のとおりです。

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

①医療

- ・第二次救急医療圏整備のため、市町村による協議会をつくり、救急医療を担う病院設備等の整備を行なう。

②福祉

- ・圏域内の保育所の広域入所情報をホームページ等に掲載し、在宅でも必要な情報が収集できるようなシステムを構築する。
- ・障がい者雇用機会の創出を図るため、圏域内に自治体、企業、関係団体等の支援組織を作り、障がい者に対する短期間の職場実習のしくみを創設する。

③教育

- ・各市町村にある文化施設及び体育施設について、圏域の住民が利用しやすいように使用料の市外料金区分を撤廃（平成 20 年度から実施）し、住民交流の促進を図る。
- ・図書館情報の共有化を図る。

④産業振興

- ・山陰文化観光圏事業の実施に向け連携を図る。
- ・圏域で開催される産業技術展の開催について支援を行う。
- ・韓国：東海市、ロシア：ウラジオストク、日本：境港を結ぶ、環日本海航路を実現するため、関係自治体が連携して、航路開設の初期の経費を助成する民間団体への支援を図る。
- ・遊覧船事業の実施を支援する。

⑤その他事業

- ・県境を越えた下水道事業の整備について、下水道の管路を隣接する自治体の下水道に接続し、住民サービスの向上を図る。
- ・災害時の応援及び防災訓練を共同で実施する。
- ・大学等教育機関との連携の充実を図る。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る分野

①地域公共交通

- ・県境を越えたコミュニティバスの運行（松江市⇄境港市、米子市⇄安来市）を実施することにより、通院や通勤の利便性の向上を図る。

②道路等交通インフラの整備

- ・中海の湖岸を周遊できる道路の整備に向け連携を図る。

③その他事業

- ・圏域の PR により圏域の結びつきの強化を図る。
- ・圏域の振興ビジョンを策定（平成 21 年度予定）することで、圏域の将

来像を明確にし、連携の強化を図る。

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

①職員交流

- ・ 県境を越えた職員交流（松江市⇔境港市、米子市⇔安来市、平成 21 年度に実施予定）をすることにより、自治体間の連携を強化する。

②中心市における人材育成

- ・ 自治体職員の共同研修を実施することにより資質の向上を図る。

③その他事業

- ・ 外部から専門的な人材を共同で招へい

【中心市への通勤通学割合 10%以上の市町村】

①中心市に対して先行実施団体から通勤通学する割合

②中心市に対してその他の市町村から通勤通学する割合

中心市	①先行実施団体		②その他の市町村	
	自治体名	割合	自治体名	割合
松江市 (ア)	境港市	5%	雲南市	16%
	安来市	13%	斐川町	13%
	東出雲町	51%		
米子市 (イ)	境港市	27%	日吉津村	66%
	安来市	11%	大山町	41%
	東出雲町	3%	南部町	52%
			伯耆町	51%
			日南町	13%
			日野町	21%
			江府町	32%
合 計 (ア) + (イ)	境港市	32%	日吉津村	66%
	安来市	24%	大山町	41%
	東出雲町	54%	南部町	52%
			伯耆町	51%
			日南町	13%
			日野町	21%
			江府町	32%
			雲南市	16%
			斐川町	13%

※ 平成 17 年国勢調査によるデータで計算したものです。

※ 当該中心市に対して、従業又は通学する就業者数及び通学者数を、常住する就業者数及び通学者数で除して得た数値の割合が 10%以上である市町村

※ 就業者数及び通学者数とは、「常住地による従業・通学市町村、男女別 15 歳以上就業者数及び 15 歳以上通学者数」中「総数」のうち「15 歳以上就業者数」及び「15 歳以上通学者」の合計から自宅において従業する者の数を控除して得た数値です。

【中海市長会としての取り組み】

中海市長会は、平成 19 年 7 月に設立した後、圏域の連携活動として、次の事業を実施してきました。

平成 20 年 7 月から東出雲町がオブザーバー参加しています。

(1) 平成 19 年度に実施した主要事業

中海圏域の市民の交流を促進するため、平成 20 年 4 月 1 日より、文化施設・体育施設の使用料金体系から市外区分を撤廃しました。

	施設数合計	体育施設	文化施設	実施時期
松江市	21 施設	17	4	平成 20 年 4 月 1 日
米子市	26 施設	22	4	(市外区分の設定なし)
境港市	6 施設	5	1	平成 20 年 4 月 1 日
安来市	9 施設	9	0	平成 20 年 4 月 1 日
東出雲町	3 施設	3	0	平成 20 年 10 月 1 日

(2) 平成 20 年度実施事業

- ・ 中海圏域シンポジウムの開催
- ・ 大都市圏における情報収集・発信体制の構築
- ・ 圏域のイメージキャラクターの公募
- ・ 情報発信機能の構築
- ・ 青少年海外研修事業の実施
- ・ 国際定期便の長期安定運航支援
- ・ 環日本海経済交流講演会の開催
- ・ 第 14 回環日本海拠点都市会議への参加
- ・ 環日本海貨客船航路就航支援活動
- ・ 日中友好交流書画展への協賛参加

(3) 定住自立圏構想の先行実施団体

中海市長会は、定住自立圏構想の先行実施団体として、定住自立圏構想推進要綱の策定に際し、圏域の連携のあり方等について、国と意見交換を重ねてきました。

先行実施団体としての位置づけ

中心市 松江市、米子市

周辺市町村 境港市、安来市、東出雲町